島嶼学概論Ⅰ　三島村硫黄島講義レポート

鹿児島大学 大学院　農学研究科　修士一年　渕田 絢子

私は今回、初めて観光ではなく講義の一環として島に行き、いろいろなことを学びました。私がこれまで行ったことがある島は屋久島のみで、そのとき私が見たものはたくさんの自然と広大な景色、綺麗な海、街中ではなかなか見ないような動物たちでした。そのため島への知識はそこまで深くはありませんでした。生活面においても、本土と離れている分不便なことが多くて暮らしにくいようなイメージでした。しかし今回、島について学ぶために離島へ行くという貴重な経験を通して、島へのイメージが大きく変わったように感じました。

島での一泊二日の中で一番衝撃だったのは、車で島を巡って綺麗な景色を見た後に、緑がたくさんある景色の中にゴミが捨てられているところへ行った時でした。ゴミ問題は、世界規模や国単位で問題を提示されても、どこか他人事として考えてしまう現状があるように思います。しかし島には、物で溢れかえったところにいては決して身近に感じない問題が、はっきりと目の前にありました。島から帰ってからゴミ問題について調べ、日本が世界でもトップクラスのゴミの量を排出していることを知り、他人事と考えてはいけないと痛感しました。しかし、人が便利で快適に暮らせるように新しいものが作り出され、古いものがいらなくなり、捨てられるというサイクルは簡単には止められないように感じます。

また、現地で働きながら生活されている方々の貴重なお話を聞き、生活面へのイメージが変わりました。今回は婦人会、発電所、学校の校長先生、看護婦さんのお話を聞かせていただきました。全体を通して感じたのは、職業の種類などは関係なく、島の規模に見合った提供になるように人員の数や発電の機械の数などが考えられており、そのなかでうまく回して、不便なく生活されていらっしゃるということでした。島に行く前は、人口が少ないことは地域の不活性化のような、デメリットしか生まないのではないかと思っていましたが、島の方々の話を聞いたり、触れ合ったりしていく中で、メリットもあると感じました。特に小学校は、親が小学校の教員である私がいままであまり聞いたことがない複式学級というもので構成されていて、聞いた話は全て新鮮に感じました。他学年の人たちと一緒に勉強することで、上級生は下級生のお世話をし、下級生は上級生から学ぶことを考えると、協調性や道徳性のようなも

のはもちろん、自立性も身に付く教育方法なのではないかと考えます。

また、印象に残っている体験として、島の人たちと顔を合わせて触れ合うことができたジャンベ演奏があります。島の港に到着したときも次の日に港を出発したときもジャンベの演奏があって、その演奏や歌を子供から大人まで一緒に共有できることの楽しさ、2 日間を通して、会う人会う人、みんなが顔見知りであるようなあの独特の雰囲気自体が新鮮で、これが島というものの良さなのだろうなと感じました。

しかしやはり、「人口減少」や「流通困難」などの課題の壁は大きく、今度も向き合っていかなければならない問題であると考えます。私は地域活性化のために特産品を作り出すという解決方法を考えました。しかし、降雨量や気温などの自然環境は施設などを整えれば、ある程度は栽培者の思うように調節できますが、土壌の質というのはその土地に根付いた変えようのないものでありながら、作物の栽培にかなり影響を与えます。このことを考えると、土壌が特殊なこの島では、特産品を作るというのはかなり限界があるのかなと感じました。次に考えたのは「観光」です。綺麗な海、大きな山、広大な自然、クジャクのような珍しい生き物を十分に押し出していくこと、またその情宣活動は非常に大切であると思います。実際、現地に行って初めて知る良さがたくさんあったので、余計そう感じました。

今回、2 日間という短い間でしたが多くの貴重な体験をさせていただき、とても充実した時間でした。このような機会を作ってくださった教員の先生方、大切なお時間を我々のために使っていただいた島の方々に感謝するとともに、今後自分にできることを考えていきたいとおもいます。ありがとうございました。